

企業名： オリエンタル白石

レポート名： コーポレートレポート 2022

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

経営理念にある通り、人と技術を活かし、常に社会から求められる集団がこの会社が目指している将来の姿だと思います。そして、これはこれまでの経営を見れば納得できます。まず人を重んじるという点に関しては、「技術の継承、若手・中堅の底上げ、次世代リーダーの育成を意図して、人材育成ワーキングを立ち上げました。新入社員、若手社員のための教育動画をつくり、eラーニングを実践、クラウド型の配信システムで全国各支店の社員が好きな時に好きな場所で学んでいます。加えてオンライン講習も随時開催し、多数の社員が参加しています。資格取得に関しては、毎年目標を定め、各種データベースの整備充実、先輩社員のきめ細かい添削指導を行っています。」とあるように十分に重んじているということが読み取れます。そして、後で詳しく述べますが、技術は長年培われたものであり、DX化といった新しい技術によって常に社会に求められるように経営しています。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

私はこの会社の競争優位性は経営理念にあるとおり技術と人にあると思います、なぜそう思うのかについて述べていきます。近年、気候変動や集中豪雨により治水施設の建設が必要になってきています。そして、この需要に対する新規参入は必ずあると思うのですが、それに対してこの会社は長年にわたる技術ノウハウという点で競争優位を確立していると思います。というのも、この会社は10年以上も前にオリエンタル建設と白石の合併、日本橋梁との合併を通じて必要な技術の確立を図ってきました。なので、技術の熟練度が乏しい新規参入に対して優位に立つと思います。そして、以前からある長年の技術ノウハウを持つ競合に対しては、上記の人材育成ワーキングという人に対する十分な投資により、確実な技術の継承、発展をしており、優位に立っていると思います。また、近年の世間の動向に対してSEGsを意識したりDX化を進めるために山本工業をグループ化するなど新しい技術を物にできるという点においても競争優位を確立しているといえ、実際に次のグラフのようにこれから



する仕事が増えていることから納得ができます。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

経営理念にある技術と人というのが競争優位性を生み出していると言いましたが、この経営資源に持続性があるのか VRIO 分析によって考察していきたいと思えます。まず、上記のようにこの資源は価値を持っていますが、技術は競合他社も持っているので、希少性が少ないのではないかと考えられます。しかし、先ほど述べたように技術の正確な継承、発展というのは人材育成に力を入れているこの会社であるからこそであり、類似はしていても差異は十分にあり、希少と言えると思えます。そして、これらは人づての継承であり、さまざまな会社との合併によって洗練されてきたものなので経路依存性が高く模倣は難しいと言えます。また、DX化等を通じて現代に通用する組織、整備がなされています。なので、この会社がないと長年洗練されてきた技術を現代に応用した土木関係のインフラがなくなり、災害時に困るといように持続的競争優位がこの会社にはあるといえます。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

まず、今まで述べてきたように組織特殊な人的資本に関しては獲得できると思えます。そして、その過程で土木関係の知識は十分に身につくと考えられます。ほかに、(1)で引用した通り、資格試験への指導もあることから、この業界での人的資本は必ず身につくと言えます。また、DX化を導入していることもあり、IT技術といった新しい技術を身につけることを推進していることや、次期経営層が期待される人材に対し経営研修が行われるなど、この業界に限らないさまざまな人的資本を手に入れることができると思えます。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

よかったと思う点に関して列挙していきます。まず2枚目の経営理念の説明のところに小さな写真がたくさん敷き詰められており、そこでの工夫が良いと思えました。写真が敷き詰められていることは他社にも多く見られることであり、他社ではその企業が作っているものがどれだけ活躍しているかを示すために工場の写真を使ったり、真剣にミーティングをしている様子があります。しかし、貴社では現場の人の写真が多く使われており、特に着目

すべきはほとんどの人が笑顔である点です。これを見ると貴社が経営理念にあるとおり従業員を大切にしているというのが印象を強く受けます。次に、これは一長一短ではありますが、39 ページに情報がまとめられていることです。他社の統合レポートを見て煩雑さを感じたのはリンクが貼ってありそのページに行くともたリンクが貼ってあるという、情報が多すぎるといえる点です。深く知ることができるというメリットもありますが、会社の決算書には現れない価値を表すという点において些末な情報を省いた貴社の報告書は良いと思いました。そして最後に、文字で列挙されてもわからないような情報を図にし、文章が長く続いた後にグラフでまとめ、売上高等をグラフにしてわかりやすく推移を示すなど王道なわかりやすさがありました。このようによかった点が多いのに対し改善余地はほとんどなかったのですが、強いて言えば 1 つだけ読んでいてわかりづらい点がありました。それは、ESG SECTION の CO2 排出量一覧を見ても比較対象がないのでわからない点です。「豊かな生活を維持、享受しながらの気候変動対策」を掲げている貴社はおそらく CO2 排出量を減らすことに尽力していると思います。しかし、排出量がどのくらいで環境に大きな被害を被るのか見当もつかない我々からすると、排出量の数値だけが出ていてもどれだけ貴社が ESG に貢献しているのかわかりません。なので、前年比や競合他社など比較対象があると納得できるのではないかと考えます。

参考文献

<https://www.orsc.co.jp/sustainability/pdf/corepo2022.pdf>